



2024年10月に実施された令和6年度診断士2次試験。この最新の2次試験の問題について、診断士受験指導のプロたちはどのように見て、分析しているのか。解釈・見解にはどのような違いがあるのか。某月某日、本誌編集部にて診断士受験業界で活躍する診断士3名が集まり、上記をテーマとして大いに語った。

- 【座談会参加者】（五十音順）
- ◆江口 明宏
EBA 中小企業診断士スクール統括講師
 - ◆立花 夏生
LEC 東京リーガルマインド専任講師
 - ◆平野 純一
KEC ビジネススクール主任講師

対策が難しくなっている事例Ⅱ

立花：皆さんは、令和6年度の2次試験に対する印象はいかがでしたか？ 私は、初見では難しい印象を受けましたが、1週間もすれば「いつもどおりだな」と思えるようになってきました。

平野：事例Ⅰにおいては令和に入ってから新しい流れが、このまま続いていくイメージがありますね。それがはっきりとわかったのが、今回の試験

です。やはり、試験委員において岩崎尚人先生を中心とするグループが退任され、新しく入れ替わったことがあると思います。過去問の価値はこれまでと変わらないでしょうが、平成時代と出題形式や内容が少しずつ変化してきていることはたしかです。あと、今回は事例Ⅲが難しかった。事例Ⅱも決して楽ではありませんでしたが、事例Ⅰのほうが楽だったと思います。

立花：たしかに例年より事例Ⅱ、Ⅲが難しいという声が多かったように感じますね。

平野：ここ2年、事例Ⅱは同じ出題者が作成していると見ているのですが、令和5年度はサブスク、令和6年度はレンタルなど、少し変わった要素の出題があったり、問題文が長くなってさまざまな暗黙の制約条件が出されたりしています。これらをきちんと見抜けるかどうか、80分という時間ではなかなか大変だったと思います。

江口：私も難しかったと思います。元々、事例Ⅱはパズル的な問題が多くて難しく、これはOK、これはダメということが明確に書かれていない。そのうえで問題文の表現としては、今回は各問において企画、新規事業、施策というワードで分けて問われていましたが、それらの違いを受験生の多くは区別して考えられていません。与件文でいえば、B社の外部資源があっても、どの要素をどの